

すくわくプログラム こあら組

1. テーマ **色×五感** 五感とは・・・見る（視覚）、触る（触覚）、嗅ぐ（嗅覚）、
聞く（聴覚）、味わう（味覚）

～様々な物と色を混ぜたら、どんな色？どんな感触？どんな匂い？どんな味？～

テーマの設定理由 4月～7月に絵の具遊びを数回行い、「たのしい」「もっとやりたい！」
という子ども達の興味関心が高いことから、色をテーマに様々な活動を行う
事にした。

2. 活動スケジュール
- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| ①様々な布 + 色 | 〈視覚、触覚、嗅覚〉 | ・・・8月末 |
| ②自然物 + 色 | 〈視覚、触覚、嗅覚〉 | ・・・7月～9月 |
| ③石鹸 + 色 | 〈視覚、触覚、嗅覚〉 | ・・・9月～10月 |
| ④染め布遊び | 〈視覚〉 | ・・・9月 |
| ⑤光り&音 + 色 | 〈視覚、触覚、聴覚〉 | ・・・11月～2月 |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①様々な素材の布、絵の具、色々な筆
@ダイナミックに行える環境（園下にビニールを敷く）
- ②水、氷、泡、花、絵の具、入れ物、すり鉢セット
@園庭で水遊びと合わせて行う
- ③グリセリンソープ、リキッドカラー、ボウル
@溶かした石鹸で火傷しないように、囲いを作って行う
- ④ペーパー、布、絵の具
@チームごとに行う、やりたいだけ何度も行える環境
- ⑤ブラックライト、蛍光塗料
@暗い空間 危なくない環境設定

4. 活動内容

- ①様々な素材の布&紙に、ダイナミックに絵の具を塗ってみる
同じ絵の具を使っても色の付き方は変わるのか？
触覚は変わるのか？乾いた後の布はどうなるのか？
- ②自然物に色をまぜてみる（水、氷、泡）
すりつぶして色を出してみる（花、食べ物）
色の付き方、冷たさ、感触、匂いはどんな感じか？ →更にごっこ遊びに展開
カフェごっこ、レストランごっこ、パーティごっこ
- ③宝石石鹸を作ってみる
好きな色をつくり、石鹸と混ぜ合わせる→2層・3層に色を組み合わせる
運動会の海賊の宝物でゲット→自宅で石鹸を使用
- ④染め布遊び →敬老の日のハガキで使用
- ⑤光と音の空間を作りあげる
光る水族館 → さらに発展させて 光る宇宙

活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり

①絵の具を手に取り、周囲を観察しながら塗り始める児もいれば、大胆に塗り始める児もいた。

足裏に絵の具をつけたり、指でぼたぼた絵の具を落とし布に描いていた。

次の日乾いた布を触り、「昨日よりも硬くなっている」「こっちはツルツルだ」

と素材の違いによってさわり心地が変わっている事に気付く。

②水遊び

・白・赤・青・黄をベースとして、自分達で混ぜ合わせて色々な色を作っていた。

次第にどの色を混ぜ合わせると何色が出来るかを知り、感覚的に覚えてきているようで

「黄色と青を混ぜると緑になるよ」「赤と白を混ぜるとピンクになるね」と言う児も出てきた。

「せんせい、見て！」と変化した色を都度保育士に見せてくれる児や「その色どうやって作るの？」と

友達の作った色の作り方を聞き真似する児もいた。

また、混ぜる割合が違うことで微妙に色に違いがでていた。例えば、明るいピンクや濃いピンク、暗めなピンク等

・色水+泡ではカップの中に色水や泡を入れ飲み物を表現していた。

・大ききの違う2つの透明カップに違う色を入れて重ね、“混ぜられない色水”でグラデーションを楽しんでいた児もいた。

「先生は何飲みたい？」と聞いて来たり、「はい、コーヒーです」と渡してくれた。

・泡でテラスの遊具を「きれいにしよう！」とキレイにしようとする姿あった。

・ティーセットを使用する際は、十分の数のテーブルや椅子を用意し椅子に座りながらパーティーごっこをしたり、ポットでカップに注いだ時の色の変化を楽しんでいた。

③宝石石鹸

・これまでの色遊びで自分の好きな色を知った子ども達。次は有形の物を作る事に挑戦。

グリセリンソープ（透明な石けんのもと）にリキッドを垂らし、色の変化を楽しみながら宝石石鹸をつくってみた。

選んだ色がグリセリンソープ内に混ざると垂らした液の量により濃さに差がでていた。

「青と赤がいい！」と色を迷いなくすぐに決める児が多かった。「ラメも入れてみよう」「キラキラしてきれい」

大切に両手で宝石石鹸を持つ姿が印象的だった。

④染め布 ペーパーを三角や四角におり絵の具をつけてみる

・開いた時「綺麗な柄になったよ」「ほんとだ、きれいだね」

・色を乗せたところにさらに色を乗せ浸みていく様子や「ここからは赤、ここは紫」と色の境目に気付いていた。

・何枚も染めてみると、折り方によって模様が違くなる事に気付いた。

⑤光と音の空間

・自分の好きな生き物を、光る絵の具（蛍光塗料）を使って作ってみた。

全員の作品を飾りつけ、暗闇にすると「どんな感じで光るのかな？」「ちゃんと光るのかな？」とワクワクした様子だった。

ブラックライトをつけた瞬間、「わ〜!!!」と反応し、「きれい！」「私の作品光ってるよ」「〇〇ちゃんのも綺麗」

「もっとやりたい」「もっとつくりたい」という反応があった。

更に発展し、子ども達との話し合いで“宇宙”を作る事になると、「宇宙人をつくりたい！」と積極的につくりはじめた。

絵の具を使う事に慣れ、色を自分で混ぜてみたり、「紫にしたいから、青と赤を混ぜたい」という姿が見られた。

宇宙人、大きな地球、ロケット、銀河の壁紙、光るドリンクなどを作り、“宇宙人のパーティ”に他クラスや保護者を呼んで

楽しんだ。「宇宙楽しかったな」「またやりたいな」

音楽と光を合わせて幻想的な宇宙をつくる事が出来、満足感でいっぱいな子ども達だった。

写真



5. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・『色』をテーマに様々な色・素材等を知り、実際に使ってみたり触れたりすることで、子ども達自身で得た気付きも多くあった。始めは保育士やお友達の真似をしてみることから始める児もいたが、活動を通して徐々に自信もつき、感じたことや頭の中に浮かんでいるものを描いたり形にしようとするようになってきた。
- また、色の掛け合わせを色水遊びやペイント等の体験を通して知り、「赤と青で緑色ができる」等子ども達同士で教えあう姿も見られ、色彩感覚も養われてきているように感じた。
- ・今まで汚れたくない気持ちが強い児も活動を重ねていくうちに「やってみたい」という気持ちの方が強くなり、現在ではどの児も絵の具が付いてしまう事を気にせず自由に表現するようになりとても成長を感じた。
- ・『光る水族館』や『光る宇宙』のように自分達で作った作品を褒めてもらい、見てもらう喜びや達成感、友達と1つの作品を作る一体感を感じていたようだった。
- ・毎回「次はこうゆうのをやってみたい」と次への期待を持ち話している姿があり、子ども達のキラキラした表情や満たされた顔を見ていると身近にあるテーマでこんなに活動の幅が広がったことは、始めた当初は想像もつかなかったので本当にやってよかった。
- ・色をテーマにした探求は、季節に合わせてまた季節を問わず行う事ができ、また年齢によって活動の幅も変わり面白いテーマだと思った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都多摩市鶴牧 1-26-3 NTT 東日本多摩ビル 3F
園名	キッズサポート多摩第二めぐみクラブ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

・表現

<テーマの設定理由>

・普段の遊びの中で映画館ごっこやままごとを通して役になりきって表現することを楽しむ子が多く、表現の仕方や方法を子ども達が遊びの中で考え広がって行けるようにするため。

2. 活動スケジュール

- ・普段のごっこ遊びの中で遊びが広がる方法を子ども達と考え、必要な物（お店屋さんの看板や食べ物、レジ）などを製作していく。
- ・図書館へ行き読み聞かせをしてもらったり、自分の好きな絵本を見つけ読んでみたりする。また、好きな話を友だちと共有出来る場を設ける。
- ・子ども達の好きな音楽を流したり、ごっこ遊びに合う曲を子ども達と探して流す。
- ・ハロウィンに向けて自分たちのオリジナル衣装や小道具を製作し、自分たちで製作できる環境を作る。
- ・簡単な物語を自分たちで考えた環境設定で演じてみようとする。
- ・グループごとに劇を見せ意見交換を行う。
- ・テーマを考え、子ども達が相談しながらストーリーや役（配役や裏方）などを振り分け劇を作りあげる。
- ・劇に必要な壁面や小道具、衣装などそれぞれの役が考え、様々な素材を使用しながら製作を行う。
- ・図書館で好きな絵本を見つけ沢山の物語に触れ、オリジナルストーリーを製作していく
- ・配役を決め、衣装や小道具など子ども達が考えたものを形にしていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・普段のごっこ遊びの中で遊びが広がる方法を子ども達と考え、必要な物（お店屋さんの看板や食べ物、レジ）などを製作していく。
- ・図書館へ行き読み聞かせをしてもらったり、自分の好きな絵本を見つけ読んでみたりする。また、好きな話を友だちと共有出来る場を設ける。
- ・子ども達の好きな音楽を流したり、ごっこ遊びに合う曲を子ども達と探して流してみたりした。
- ・ハロウィンに向けて自分たちのオリジナル衣装や小道具を製作し、自分たちで製作できる環境を作る。
- ・簡単な物語を自分たちで考えた環境設定で演じてみようとする。
- ・子ども達が選んだストーリーを劇ごっこを通して表現してみようとする。
- ・意見交換の場を設け、友だちが製作したものがどんなものか感じた事を言葉に出来るようにした。
- ・オリジナルストーリーを考えるための参考になる様図書館へ出かけ沢山の物語に触れる機会を設けた。
- ・劇の配役が決まった際は、グループごとにアイデアを出し合い衣装や小物作りを行った。その際に子ども達から必要な物を聞き素材（カラーテープ・カラーポリ袋・不織布・画用紙等）を用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・遊びの中でさらに遊びが広がりそうな物（セルフレジや買い物かご、商品）などを子ども達の意見を取り入れながら製作を行っていく。
- ・ままごとやお買い物ごっこを通して役割にわかれて遊んでみる。
- ・図書館へ行き読み聞かせをもらいながら、絵本に触れてみる。図書館へ行き、好きな絵本を選んでみる。
- ・ハロウィンで好きな衣装を作る。簡単に製作できるカラーポリ袋を使用し、好きな衣装（上衣、ズボン、スカート）を製作し、飾り付けを行う。
- ・簡単なストーリーを題材として選びクラスで劇ごっこを楽しんでみる。
- ・劇ごっこを通して劇に必要な物（壁面や小道具、衣装、音響、照明）が何かを知る。
- ・どんな劇をクラスで作りたいか題材を決める。
- ・図書館や好きな絵本を見つけ、オリジナルのストーリーを子ども達と作り上げていく。
- ・劇に必要な物のアイデアやデザインを考えていく。
- ・それぞれの担当に分かれて製作を行う。
- ・時間を見つけ、演じながら劇を取り組んでいった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・元々表現することが好きな子ども達だったため、自分の経験したのから遊びの中で表現して楽しんでいた。特に映画館ごっこではさりげなく紙を用意するとチケットを作り、椅子を並べ、ステージを作りオリジナルの映画館ごっこを発展させて楽しんでいった。ちょっとした衣装を用意するとさらに展開を広げようとする姿もあった。
- ・秋になりハロウィンが近づくと子ども達からハロウィンを楽しむ様子が見られるようになる。衣装作りを提案すると喜ぶ姿が見られた。衣装の土台になるものは保育者が製作し、出来たものにそれぞれが考えたデザインを元に衣装作りを行った。子ども一人一人に作りたいテーマのようなものがあった為、テーマに沿ったものを一緒に調べながらさらに衣装を作りが楽しめるようにした。出来上がった衣装を披露する場がなかった為、他クラスを呼びファッションショーを楽しめる環境を作るようにした。
- ・その後も役になりきって遊ぶ姿があった為、子ども達の興味がさらに広げられるように図書館へ出かけいろいろな物語に出会えるような場を作った。その際に普段は手に取らないような絵本に興味を持ち読んでみようとする姿があったり、友だちと読み聞かせごっこのようにしながら楽しむ姿が見られた。
- ・クラスで簡単な物語で劇ごっこを行うと、「このセリフは〇〇にしたい」や「この役の衣装は赤がいい」、「家は壊れているものは必要だね」など活動に取り組む中で必要な物を自分たちで考え取り組もうとしていた。
- ・出来上がった劇を、他クラスに見学に来てもらう機会を設けると「緊張する」、「上手にセリフが言えるかな？」という声もあったが、終わってみると「楽しかったね」や「またやりたいな」など、表現する楽しさを感じている子が多かった。
- ・その後も図書館に出かけ好きな絵本に触れながら、次の表現活動について子ども達に聞くと「オリジナルの話を作りたい」との意見が出始め、クラスで考えるようにした。その際ストーリーを考えるのが好きな児、衣装や小物作りが得意な児がいた為、役割分担をしながら進めると、自分の得意な物を担当している為次々と意見を言いながら形にしようとする姿があった。意見が衝突することもあったが、保育者が仲介をしながら互いの意見をまとめるようにすると互いに相手の意見や話に耳を傾け新たな意見を作り出すこともあった。子ども達が作り上げようとしていた為、保育者が介入しすぎないように気を付けつつ、困っている時は一緒に考えながら子ども達がどうしたいかが見つけられるようにした。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・元々表現することが好きな子ども達であったが、表現できる場を設けることによって様々なアイデアを形にしようとする姿見られた。段階ごとに表現する活動を行うようにすると、子ども達もその時々を楽しんでいた。表現することが苦手な児もいたが

友だちの制作している過程を見ながら、イメージを膨らませる姿があった。得意でない事も友だちと一緒に取り組みながら行う事によって、楽しみながら作品作りを行う姿が見られた。その後も廃材遊びなどを通して、感じた事や作りたいものを等を形にする姿が多くみられるようになり、子ども達新しい姿の発見もあった。

・生活の中の事を表現する楽しさを知っていた為、活動を広げていく際も季節の行事や子ども達が楽しみにしているものを中心に取り入れるようにした。生活の中に自然とあるものから活動に入った為スムーズに子ども達も活動の中に入っていき、製作を楽しんでいた。急に「〇〇を行う」と活動を行うのではなく、普段の生活の中や行事に触れながら表現活動に取り組めたこととによって子ども達も楽しみながら参加で来ていた。

・衣装や小物作りでは土台を保育者が製作したもののその後の物は子ども達にゆだねるようにした為、子ども達同士で「ここは〇〇の方がいいんじゃないかな？」や「警察官は青色で女の子はスカートがいい」などデザイン画を元に製作し、最後まで妥協せずに楽しみながら製作を楽しんでいた。製作できる時間も用意したり、好きな時間に出来るようにすると集中して取り組んでいた。保育者が計画を立てなくても子どもたちなりに先を見通しながら製作する姿あった。また、クラス全員で一つの物を作り上げたいとの気持ちが一致し、クラスでまとまって作り上げようとしていた。保護者に披露する際は緊張している姿も見せつつも「劇が今まで一番楽しかった」などの言葉があり、子ども達自身も楽しみながら来ていたようだった。

・この活動を通して、子ども達が繰り返し話し合いを行いながらも形にしようとする姿が見られた。苦手と感じる児もいたが、自分なりに出来ることをやってみようとしたり、友だちと一緒に楽しもうとしていた。友だちと一緒に作り上げようとする楽しさを子ども達を通して保育者も感じる事が出来た。

